

聖書日課 『からし種』 2023.4.2-4.9

<p>4月2日 (日) I サム 16章</p>	<p>「しかし、主はサムエルに言われた。『容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映るものを見るが、主は心によって見る』(7節)。主に見えるわたしの心はどうだろうか。わたしたちには見えない賜物を見出し、希望をいただくことができるだろうか。表面で偏り見ることのない目をどうぞお与えください。</p>
<p>3日 (月) I サム 17章</p>	<p>「主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう(47節)。サウルもイスラエルの兵たちも恐れたゴリアト。しかし、まだ少年だったダビデは恐れることなく彼に向っていった。ダビデは、主をこころから信頼してゴリアトに向かった。わたしも、ダビデのように主を信頼して、主の示してくださる道を歩むものとなれるよう。</p>
<p>4日 (火) I サム 18章</p>	<p>「サウルは、主がダビデと共におられること、娘ミカルがダビデを愛していることを思い知らされて、ダビデをいっそう恐れ、生涯ダビデに対して敵意を抱いた。」(28~29節)。人はつい身近な人に目を向けてしまう。その時、共感や賞賛ではなく、なぜ、恐れや敵意を抱いてしまうのだろうか？ただ主のみを見上げて、信頼して歩み続けることは、本当に難しい。</p>
<p>5日 (水) I サム 19章</p>	<p>「彼が自分の命をかけてあのペリシテ人を討ったから、主はイスラエルの全軍に大勝利をお与えになったのです。あなたはそれを見て、喜び祝われたではありませんか。なぜ、罪なき者の血を流し、理由もなくダビデを殺して、罪を犯そうとなさるのですか(5節)。権力を持つことは、その心から平安や公德心を失わせてしまうのか。今も昔も変わらないようだ。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.4.2-4.9

<p>6日 (木) I サム 20章</p>	<p>「ヨナタンは言った。『安らかに行ってくれ。わたしとあなたの間にも、わたしの子孫とあなたの子孫の間にも、主がとこしえにおられる、と主の御名によって誓い合ったのだから』(42節)。ヨナタンには主への信頼と、友への真心がある。父サウルのダビデに対する恐怖と敵意を知っても、主のみ心に従い、愛するダビデを信頼し、守ろうとする強い意志を示す。</p>
<p>7日 (金) I サム 21章</p>	<p>「『それよりも、何か、パン五個でも手もとにありませんか。ほかに何かあるなら、いただけますか。』祭司はダビデに答えた。『手もとに普通のパンはありません。聖別されたパンがあります』(4～5節)。弟子たちが安息日に麦の穂を摘んで食べた時、ファリサイ派はその律法違反を指摘した。イエスはこの箇所を引いて、律法はなんのためにあるのか示された。</p>
<p>8日 (土) I サム 22章</p>	<p>「傍らに立っている近衛兵に命じた。『行って主の祭司たちを殺せ。彼らもダビデに味方し、彼が逃亡中なのを知りながら、わたしの耳に入れなかったのだ。』だが、王の家臣は、その手を下して主の祭司を討とうとはしなかった」(17節)。主の祭司に対して手を下す罪の重さを、王の家臣たちは知っていた。しかし、サウルには主の御旨が分からなくなった。</p>
<p>9日 (日) I サム 23章</p>	<p>「ヨナタンが…ダビデのもとに来て、神に頼るようにとダビデを励まして、言った。『恐れることはない。父サウルの手があなたに及ぶことはない』(16-17節)。権力欲に突き動かされることも、ダビデへの嫉妬にかられることもなく、ただ神を畏れて従うヨナタンの信仰に心を打たれる。信仰は、肉を通してではなく、神から与えられるもの。ただ聖霊の働きを求めて。</p>